

ディラン氏ノーベル文学賞

今年のノーベル文学賞はシンガー・ソングライターのボブ・ディランさん(75)に決まり、世界に驚きが広がった。10年来、受賞が期待されて話題になる村上春樹さん(67)は今回も選ばれなかった。だがポップカルチャーを代表するディランさんの受賞で、村上さんの賞への壁が取り払われたとの見方もある。村上さんは今後、受賞する可能性はあるのだろうか。

*賞が変化

「時代は変わっていく」。ストックホルムで13日、ノーベル文学賞



村上春樹さん

の発表に臨んだスウェーデン・アカデミーのサラ・ダニウス事務局長はディランさんの歌にちなみ、そう述べた。賞の劇的な変化に、報道陣から驚きの声が上がった。伝統と権威あるアカデミーは、長らく商業主義やポップカルチャーとは距離を取ってきた。世界中に愛読者がいる村上春樹さんの評価も、スウェーデンでは高くない。同国の文芸誌の編集者で、村上作品をスウェーデン語に訳しているデューク・雪子さんは「村上作品は多くの人に愛されているが、ノーベル賞にふさわしいとはみなされていいない。アカデミーは彼の作

村上氏に風は吹くか



村上春樹さんのノーベル文学賞受賞がかなわず、がっかりするファンの人たち＝13日、東京都杉並区

も「誰が受賞すべきか」の問いに村上さんを挙げた人はいなかった。

*批評不足

品を『やや軽い』とみなしているのでは」とみる。スウェーデンのテレビ局は発表直前の番組で「最も賞に値しない作家」として村上さんに言及。地元紙が作家など100人にアンケートをした結果で

なぜ今年はディランさんに決まったのか。東京大の阿部公彦准教授(英米文学)が挙げる理由は水準の高い批評の存在だ。「英米文学のトップクラスの研究者が研究

書を出している。ディランを公式に認知する環境が整った」。村上さんの場合、こうした批評が不足しており、それが受賞を阻む要因でもあると阿部さんはみる。

翻訳家の鴻巣友季子さんは「昨年女性の事務局長が登場し、ジャーナリストとシンガーが受賞した。選考側が考えを変えたのは間違いない」と別の背景を指摘する。

ポップ文化に光／新作が鍵

鴻巣さんは「文学の領域が広がり、可能性が広がった意味ではうれしいが、アメリカの作家たちが積み上げてきた実績を思つと、やるせない」と複雑な胸の内も明かす。ディランさんの陰で、ドン・デリーロさんら有力とされてきた米作家の受賞は遠のいてしまった。

*売れ過ぎ

村上さんは今後、受賞するだろう

ポップ・ディランさんのノーベル文学賞受賞決定から一夜明けた14日、県内の書店やレコード店は特設コーナーを設けるなどの対応に追われた。

岐阜市正木中の商業施設マールサ21内にあるCD販売店「メディアステーションビッグ」は、CDやライブ映像のDVDを一角に集めた。CDには「ノーベル文学賞受賞」の札を付けた。マールサ21内の書店丸善岐阜店では、ディランさんの関連書は

CD店に特設コーナー

県内、ディラン氏受賞に沸く

散文集「タランチュラ」など10点を扱っている。店員の稲葉学さん(39)は「突然のニュースだった。在庫は今少し少ないが、早速出版社から増刷の案内が送られてきている」と話した。今後、関連書や紹介コーナーを充実させる予定という。

同市住ノ江町のレコード店「バナナレコード」によると、中年の男性客が代表作のアルバム「地下室」などCD4枚をまとめて購入していったという。

村上さんは昨年刊行のエッセー集「職業としての小説家」で「作品が真に優れていれば、しかるべき時の試練を経て、人はいつまでもその作品を記憶にとどめます」とし、ノーベル賞を取ったかどうか「誰が気にするでしょうか」と記した。世界のファンが心待ちにしているのはノーベル賞よりも、次回作なのかもしれない。

うか。鍵を握るのは次回作だ。文芸評論家の川村湊さんは「東日本大震災を踏まえた重厚な長編が出れば賞に近づくだろう。少なくとも『軽い』という否定的な意見は回避できる」と語る。

鴻巣さんは「受賞の障壁はエンターテインメント性が高過ぎることと、売れ過ぎること。その壁は取り払われた」との見方を示す。一方で、村上さんが米国文化に近過ぎるといふ難点もある。「アメリカのポップカルチャーのご真ん中の人々が賞を取った。村上さんの受賞は遠のいたともいえる」